

3. 夜久野末窯跡群の保全と活用について

末窯跡群は福知山市夜久野町の高内、日置、末にまたがって所在する北近畿でも屈指の古代須恵器窯跡群であり、これまでの調査により140基を超す窯跡の存在が推定されている。

京都府内では亀岡市篠窯跡群と並ぶ最大級の窯跡群であり、窯の操業を終えて以後、そのまま膨大な数の窯跡が手つかずに残されていることから、窯場を繋ぐ道や作業場所、製品の集積場所など古代の窯场景観を含め、須恵器生産地の様相を把握できる全国的にも貴重な遺跡であると評価でき、古代窯業生産史の解明にとっても本窯跡群のもつ意義は大きい。

本窯跡群の存在は古くから知られていたが、発掘調査事例は少なく、主に表面観察により遺跡の内容が把握されている。

本窯窯跡群は1966年の時点で20基ほどが確認され⁽¹⁾、1976年には40基余りと増加⁽²⁾、1994年には夜久野中学校建設に伴い、末窯跡群内に位置する高内鎌谷遺跡の発掘調査が実施され、竪穴住居跡や掘立柱建物跡とともに灰原2か所が確認されている⁽³⁾。1997年の日置地区末5号窯跡（関垣4号窯）の発掘調査では、7世紀前半の須恵器が出土していることから同窯跡群内では最も古い窯跡とされている⁽⁴⁾。窯の総数は2013年発刊の『夜久野町史』では53基となり、2018年には東昭吾氏により総数140基を超える一大窯跡群であることが明らかとなった⁽⁵⁾。

窯跡の総数が年々増える中、同窯跡群は三度にわたり保存の危機を迎える。一度目は民間事業者によるゴルフ場開発の計画による土地の取得である。この計画は途中で中止され、1984年頃に転売されたが、産業廃棄物処分施設の建設が取得した民間事業者により計画され、二度目の危機を迎える。この計画は公害産業の進出を何とか阻止し、町民の生活を守ろうと、結果的に夜久野町が土地を購入することでなくなり同窯跡群は保存されたのであるが、その後、購入した町有地を町の活性化に活用するためゴルフ場をはじめとする通年滞在型のリゾート構想案が浮上し、三度目の危機を迎える。当時の「広報やくの」では、数度にわたりこの計画の概要を紹介し、計画の推進を図るが、反対意見や反対運動もあり計画は消滅し同窯跡群もそのまま保存されたのである⁽⁶⁾。

このような経過を経て現在にいたる同窯跡群であるが、今回の調査では、同窯跡群のみならず周辺地域の環境、景観、地質、植生など様々な角度から調査が実施され貴重な成果を得ることができた。

これらの成果は、同窯跡群をはじめ周辺部が手つかずのまま保存されていたことが大きく、福知山市としては市内重要遺跡のひとつとして地域住民と連携をしながら、今後も様々な角度からの調査・研究が行われることを念頭におきつつ、史跡指定等などを行うことにより、現地の保全を図り未来へ引き継いでいく必要があると考える。

そのためには、その重要性や価値を地域住民がさまざまなかたちで享受できるようにすることが不可欠であり、資料館での資料の展示公開、現地での案内板の設置、学校などへの学習教材の提供、シンポジウムの開催や現地を体感できるフィールドワークの実施、SNSを用いた情報発信など、同窯跡

群をはじめとする様々な調査・研究資料の総合的な活用についても力を入れ、地域住民に還元していく必要がある。

末窯跡群は先人たちが大切に伝え残してきた地域の「歴史的資源」であり、個性豊かな地域づくりと人づくりの礎になるものである。今後においてこれまで以上の保全と活用を推進することは、さらにその重要性和価値を高め、長期にわたって地域の魅力を生み出し続ける「歴史的資産」としての位置付けへとつながるものである。 (松本学博)

註

- (1) 夜久野町教育研究会 1966『郷土夜久野歴史篇 付地誌篇』
- (2) 京都府立丹後郷土資料館 1976『丹波夜久野の文化財』
- (3) 夜久野町教育委員会 1994「高内鎌谷遺跡発掘調査概報」『夜久野町文化財調査報告』第3集
- (4) 夜久野町教育委員会 1997「末5号窯発掘調査概報」『夜久野町文化財調査報告』第6集
- (5) 東 昭吾 2018「末古窯跡群詳細調査報告書(1)」『丹波国における埋蔵文化財調査報告書』第2冊
- (6) 夜久野町 1988『広報やくの』252号
夜久野町 1992『広報やくの』294号
夜久野町 1992『広報やくの』295号
夜久野町 1993『広報やくの』302号

編集後記

本書の執筆・編集には、筆者含めた学生も少なからず携わった。思えば初めて末窯跡群の踏査に参加した時は、山の中で右も左もわからず先輩の背中にひっついていき、落ちている土器に夢中になっていた。後輩を先導する立場になると手元の地図と睨めっこしつつ、採取した土器の記録や、整理作業の日程を考えた。夜久野では先輩方の歩みも蓄積しており、私自身も他分野の先生方との合同踏査や資料の分析、成果報告会の開催などの得難い経験をした。その成果をこうして1冊にまとめ上げる段階に関わることができたことは感慨深い。多くの人と関わり、貴重な資料に触れる機会を得たことに感謝したい。(も)

表紙・裏表紙写真

上左：夜久野末窯跡群の調査風景

上中：長者森古墳

上右：ボーリング調査風景

下：夜久野末窯跡群の遠景（ナゲ地区）

(以上、菱田撮影)

裏表紙：小倉田古墳出土双龍環頭大刀

(栗山雅夫氏撮影)



京都府立大学文化遺産叢書 第28集

夜久野の後期古墳と末窯跡群

編集 菱田 哲郎 (京都府立大学文学部教授)
諫早 直人 (京都府立大学文学部准教授)

発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月29日

印刷 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2